

9 ウメの実が熟すのは、梅雨の季節！ いよいよ収穫だ！

授粉をしたウメの実^みは、5月^{がつ}になるとだいぶ大きくなってきて、6~7月^{がつ}ごろには成^{せい}熟^{じゅく}期^きをむかえるよ。
病^{びょう}害^{がい}虫^{ちゅう}が発生^{はっせい}していないかどうか注意^{ちゅうい}しよう。水^{みず}やりも忘れ^{わす}れずにね。実^みが緑^{みどり}色^{いろ}から少し黄^き緑^{みどり}色^{いろ}になったら、いよいよ収^{しゅう}穫^{かく}だ。実^みをとりおえてほっとしていると、真^ま夏^{なつ}の太^{たい}陽^{よう}の下^{した}、
ウメの木^きはもう来^{らい}年^{ねん}の花^{はな}芽^めの準^{じゅん}備^びをしてい^いるんだよ。

あ お
青ウメ ^{しゅうかく}を収^{しゅう}穫^{かく}
梅^{ばい}肉^{にく}エキスやカリカリ漬^づけ用^{よう}には、少^{すこ}し
早^{はや}めに収^{しゅう}穫^{かく}しよう。収^{しゅう}穫^{かく}のめやすは、
ようすをみながら、好^{この}み^のの時^じ期^きに採^とれば
いいんだよ。

お うりよくしよく き いろ
黄^き緑^{いろ}色^{いろ}から黄^き色^{いろ}
青^{あお}ウメは苦^{にが}み^{さん}や酸^{さん}味^みが強^{つよ}いので、薬^{やく}用^{よう}に
はむくけれど、家^か庭^{てい}で梅^{うめ}干^{かん}しをつくると
きには、木^きで黄^{おう}緑^{りょく}色^{しよく}から黄^き色^{いろ}に熟^{じゅく}した
ウメのほう^{ふう}が風^{ふう}味^みも肉^{にく}質^{しつ}もい^いいよ。梅^{うめ}シ
ロップ^{ろっぷ} (ジュー^{うめしゅ}ス) や梅^{おう}酒^{りょく}には、黄^{おう}緑^{りょく}色^{いろ}
ぐらいがちょうどい^いね。熟^{じゅく}すとい^いい香^か
り^あがして^りくるので、緑^{みどり}色^{いろ}でもい^い香^か
り^あがしたら熟^{じゅく}した証^{しょう}拠^こだ。果^か実^{じつ}がま
るくふくらんで核^{かく}がかた^{かつ}く褐^{かっ}色^{しよく}になっ
てい^いれば熟^{じゅく}してい^いるよ。もい^いで収^{しゅう}穫^{かく}し
よう。部^へ屋^やにおくと、い^い香^かりがするよ。





夏から秋の管理

ウメは真夏に来年の葉芽や花芽の準備をしているので、肥料や水をきちんとやろう。そうしないと早い時期に葉がおちて、来年の春、めしべの小さい不完全花になったり、花が咲いてもすぐにおちてしまうよ。また、8月末までは翌年咲く花芽ができる時期だから、枝を切らずに、強い枝は稔枝や枝折りをするんだ。9月に入ったら直立した枝などを切る間引きせん定をするよ。稔枝や枝折り、間引きせん定などについては、巻末解説をみてね。

秋から冬の管理

枝は休眠して冬にそなえるので、水やりはひかえめにして、じょうぶな枝や葉をつくろう。12月には根が活動し始めるので、醗酵油粕の置き肥などをやって翌年にそなえよう。また、葉が落ちたあとの12月から、花芽が動きはじめる前の2月ごろまでの間に枝を切って、木の形を整えよう。これが3年目の冬のせん定だ。切る枝は、枯れ枝、弱った枝や病害虫被害のある枝。勢いが強くそのままだとほかの枝が負けてしまう枝。おなじところから出ている枝。平行に重なっている枝などだよ。せん定作業について、くわしくは巻末解説をみてね。